

1. 今井二丁目一号橋

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	経度	橋梁ID
今井二丁目一号橋 (フリガナ)イマイニチヨウウメイチゴウバシ	長浦4号線	袖ヶ浦市長浦580-77地先		35° 26′ 29.00″	139° 58′ 26.00″	35.44139,139.97389
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ヶ浦市	2022.12.2	今井背後水路	有	一般道		無

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)	定期点検者	開発虎ノ門コンサルタント(株) 漆畑 雄一郎
定期点検時に記録	応急措置後に記録	

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造	I	主桁				
		横桁				
	I	床版				
下部構造	I					
支承部	Ⅱ	土砂詰まり	写真1 支承本体101			
その他	Ⅱ	腐食、欠損、土砂	写真2～4 伸縮排水装置			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)
定期点検時に記録
(判定区分) (所見等)

Ⅱ	支承部に土砂詰まりが見られる。道路橋の機能に支障は生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態である。
---	---

全景写真(起点側、終点側を記載すること)			
架設年次	橋長	幅員	
不明	13m	6.55m	
橋梁形式			
PC単純床版橋、不明			

全景

起点側

終点側

正面

起点側より

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

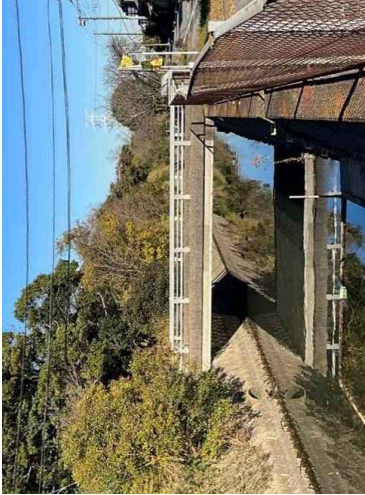
状況写真(損傷状況)

○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

支承部【判定区分：Ⅱ】		その他(伸縮装置)【判定区分：Ⅱ】	
写真1	 支承本体 Bh101 土砂詰まり	写真2	 伸縮装置 Ej02 変形・欠損
写真3		写真4	
 排水ます Dr01 土砂詰まり		 排水管 Do02 腐食、変形・欠損	

2. 蔵波居下橋

橋梁名		路線名		所在地		起点側	緯度	35° 26′ 33.00″	橋梁ID
							経度	139° 58′ 36.00″	35.4425,139.97667
蔵波居下橋 (フリガナ)クラナミシタバシ		長浦8号線		袖ヶ浦市長浦580-179地先					
管理者名		定期点検実施年月日		路下条件		代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ヶ浦市		2022.12.2		今井背後水路		有	一般道		無
部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)									
定期点検時に記録									
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)		応急措置後の判定区分	応急措置内容		応急措置及び判定実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ							
	横桁								
	床版	Ⅰ							
下部構造		Ⅰ							
支承部		Ⅱ	土砂詰まり	写真1 支承本体101					
その他		Ⅱ	凹凸、変形・欠損等	写真2～4 伸縮・舗装・排水管					
道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)									
定期点検時に記録									
(判定区分)		(所見等)							
Ⅱ		支承部に土砂詰まりが見られる。道路橋の機能に支障は生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態である。							
全景写真(起点側、終点側を記載すること)									
架設年次		橋長	幅員						
不明		13m	6.53m						
橋梁形式									
PC単純床版橋、不明									
全景				終点側				正面	
									
起点側				終点側				起点側より	

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真(損傷状況)
 ○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。
 ○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

支承部【判定区分：Ⅱ】		その他(伸縮装置)【判定区分：Ⅱ】	
写真1		写真2	
支承本体 Bh101 土砂詰まり		伸縮装置 Ej02 変形・欠損	
写真3		写真4	
			
舗装 Pm01 路面の凹凸		排水管 Dp01 腐食、防食機能の劣化	
その他(舗装)【判定区分：Ⅱ】		その他(排水管)【判定区分：Ⅱ】	

3. 今井二丁目二号橋

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	経度	橋梁ID
今井二丁目二号橋 (フリガナ)イマイニチヨウウメゴウキョウ	今井二丁目5号線	袖ヶ浦市長浦580-99地先		35° 26′ 38.00″	139° 58′ 50.00″	35.44389,139.98056
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ヶ浦市	2022.12.14	今井背後水路	有	一般道		無

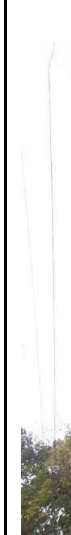
部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)						
定期点検時に記録			定期点検者			

応急措置後に記録						
部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造	Ⅰ	主桁				
		横桁				
		床版				
下部構造	Ⅰ					
支承部	Ⅱ	土砂詰まり	写真1 支承本体201			
その他	Ⅱ	凹凸、変形・欠損等	写真2～4 伸縮、舗装、排水管			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)						
定期点検時に記録						
(判定区分)	(所見等)					

Ⅱ	支承部に土砂詰まりが見られる。道路橋の機能に支障は生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態である。					
---	---	--	--	--	--	--

全景写真(起点側、終点側を記載すること)		
架設年次	橋長	幅員
不明	13m	6.54m
橋梁形式		
PC単純床版橋、不明		

全景	
正面	

全景

起点側

終点側

正面

起点側より

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真(損傷状況)
 ○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。
 ○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

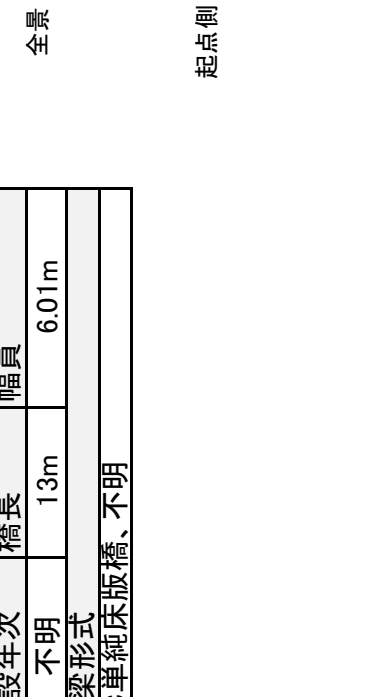
支承部【判定区分：Ⅱ】		その他(伸縮装置)【判定区分：Ⅱ】	
写真1		写真2	
支承本体 Bh201 土砂詰まり		伸縮装置 Ej01 変形・欠損、漏水・帯水	
その他(舗装)【判定区分：Ⅱ】		その他(排水管)【判定区分：Ⅱ】	
写真3		写真4	
舗装 Pm01 路面の凹凸 (h=30mm)		排水管 Do01 腐食、防食機能の劣化	

4. 今井二丁目三号橋

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	経度	橋梁ID
今井二丁目三号橋 (フリガナ)イマイニチヨウメサンゴウキョウ	今井二丁目1号線	袖ヶ浦市今井2丁目1地先		35° 26′ 43.00″	139° 59′ 00.00″	35.44528,139.98333
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ヶ浦市	2022.12.2	今井背後水路	有	一般道		無

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)						
定期点検時に記録						
部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造	Ⅰ	主桁				
		横桁				
		床版				
下部構造	Ⅰ					
支承部	Ⅱ	土砂詰まり	写真1 支承本体101			
その他	Ⅱ	腐食、欠損等	写真2～4 防護柵,舗装,排水管			
道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)						
定期点検時に記録						
(判定区分) (所見等)						
Ⅱ	支承部に土砂詰まりが見られる。道路橋の機能に支障は生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態である。					

全景写真(起点側、終点側を記載すること)			
架設年次	橋長	幅員	
不明	13m	6.01m	
橋梁形式			
PC単純床版橋、不明			
全景			
終点側			
正面			
起点側より			

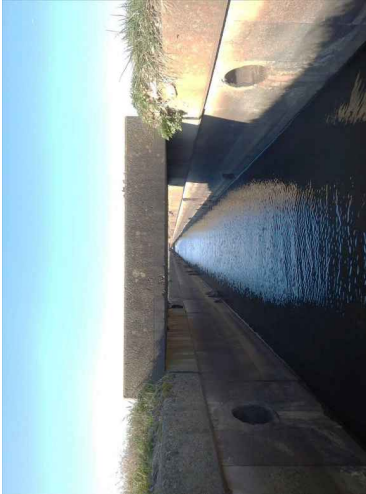
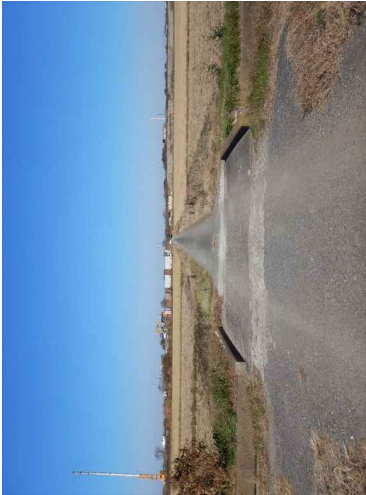
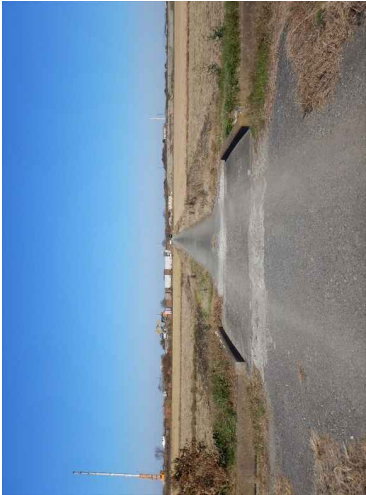
※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真(損傷状況)
 ○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。
 ○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

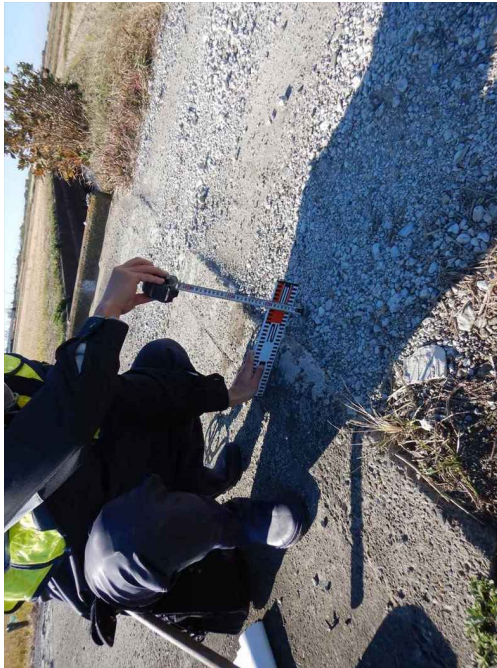
支 承 部【判定区分：Ⅱ】		そ の 他(防 護 柵)【判定区分：Ⅱ】	
写真1		支 承 本 体 Bh101 土 砂 詰 ま り	防 護 柵 Gf01 腐 食, 防 食 機 能 の 劣 化
		そ の 他(舗 装)【判定区分：Ⅱ】	
写真3		舗 装 Pm01 路 面 の 凹 凸	そ の 他(排 水 管)【判定区分：Ⅱ】
		排 水 管 Do01 腐 食, 防 食 機 能 の 劣 化	
		写真2	
			
		写真4	
			

5. 坂戸市場観音谷橋

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名		路線名		所在地		起点側	緯度	35° 25′ 59.00″	橋梁ID
							経度	139° 56′ 57.00″	35.43306,139.94917
坂戸市場観音谷橋 (フリガナ)サカドイチバカンノンタニバシ		坂戸市場1号線		袖ヶ浦市坂戸市場73-1地先					
管理者名		定期点検実施年月日		路下条件		代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ヶ浦市		2022.12.11		奈良輪第一雨水幹線		有	一般道		無
部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)									
定期点検時に記録									
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)		応急措置後の判定区分		応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日
上部構造	主桁	Ⅱ	剥離・鉄筋露出	写真1 主桁04					
	横桁								
	床版								
下部構造		Ⅰ							
支承部		Ⅰ							
その他		Ⅱ	路面の凹凸	写真2 舗装01					
道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)									
定期点検時に記録									
(判定区分)		(所見等)							
Ⅱ		主桁端部に鉄筋露出が見られる。道路橋の機能に支障は生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態である。							
全景写真(起点側、終点側を記載すること)									
架設年次		橋長	幅員						
不明		3m	3.60m						
橋梁形式									
PC単純床版橋、不明									
全景				終点側			正面		
									
起点側				終点側			起点側より		

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

上部構造(主桁)【判定区分：Ⅱ】		その他(舗装)【判定区分：Ⅱ】	
写真1		写真2	
主桁 Mg04 剥離・鉄筋露出		舗装 Pm01 路面の凹凸	
【判定区分：Ⅱ】		【判定区分：Ⅱ】	

6. 飯富上池下橋

橋梁名		路線名		所在地		起点側	緯度	35° 25' 12.00"	橋梁ID
							経度	139° 59' 34.00"	35.42,139.99278
飯富上池下橋 (フリガナ)イトミカイケシタバシ		飯富上泉線		袖ヶ浦市飯富2366地先					
管理者名		定期点検実施年月日		路下条件		代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ヶ浦市		2022.12.1		河川		有	一般道		無
部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)									
定期点検時に記録									
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)		応急措置後の判定区分	応急措置内容		応急措置及び判定実施年月日
溝橋(ボックスカルバート)本体	頂版	Ⅰ							
	側壁	Ⅰ							
	底板	Ⅰ							
翼壁									
継手									
その他		Ⅰ							
道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)									
定期点検時に記録									
(判定区分)		(所見等)							
Ⅰ		道路橋の機能に支障が生じていない状態である。							
全景写真(起点側、終点側を記載すること)									
架設年次		橋長	幅員						
1985年		11m	15.30m						
橋梁形式									
現場打ちボックスカルバート									
全景				終点側			起点側より		
									

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

【判定区分：】	
【判定区分：】	

7. 大橋

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	経度	橋梁ID
大橋 (フリガナ)オオハシ	上泉18号線	袖ヶ浦市永地1474地先		35° 24′ 23.00″	140° 02′ 05.00″	35.40639,140.03472
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ヶ浦市	2023.1.13	松川	有	一般道		不明

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)						
定期点検時に記録			定期点検者			
部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日
上部構造	Ⅰ	主桁				
		横桁				
		床版				
下部構造	Ⅰ					
支承部	Ⅰ					
その他	Ⅰ					

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)	
定期点検時に記録	
(判定区分)	(所見等)
Ⅰ	道路橋の機能に支障が生じていない状態である。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)			
架設年次	橋長	幅員	
1991年	34m	5.00m	
橋梁形式			
PC単純プレテンT桁橋、逆T式橋台2基、張出式橋脚1基			



※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

【判定区分：】	
【判定区分：】	

8. 昭和橋

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	35° 24′ 17.00″	橋梁ID	
				経度	140° 02′ 03.00″		35.40472,140.03417
昭和橋 (フリガナ)ショウワバシ	野里永地線	袖ヶ浦市永地80-1地先					
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
袖ヶ浦市	2023.1.12	松川	有	一般道		不明	
部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)							
定期点検時に記録							
部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日	
上部構造	主桁						
	横桁						
	床版						
下部構造	Ⅰ						
支承部	Ⅰ						
その他	Ⅱ	腐食、脱落、凹凸等	写真1～3 防護柵、舗装、排水管				
道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)							
定期点検時に記録							
(判定区分)	(所見等)						
Ⅰ	排水管に孔食を伴う腐食、防護柵にボルトの脱落、舗装に凹凸が見られるが、道路橋の機能に支障は生じていない状態である。						
全景写真(起点側、終点側を記載すること)							
架設年次	橋長	幅員					
1990年	25m	5.00m					
橋梁形式							
PC単純プレテン中空床版橋、逆T式橋台2基、張出式橋脚1基							
全景			終点側			起点側より	
							

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

9. 野里塩辛橋

橋梁名		路線名		所在地		起点側	緯度	35° 23′ 42.00″	橋梁ID
							経度	140° 02′ 20.00″	35.395,140.03889
野里塩辛橋 (フリガナ)ノザトシオカラバシ		横田8号線		袖ヶ浦市野里463-1地先					
管理者名		定期点検実施年月日		路下条件		代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ヶ浦市		2022.12.1		平岡大排水路		有	一般道		無
部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)									
定期点検時に記録									
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)		応急措置後の判定区分		応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ							
	横桁								
	床版								
下部構造		Ⅰ							
支承部		Ⅰ							
その他		Ⅱ	舗装の異常、欠損、土砂	写真1,2 舗装01、写真3 その他					
道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)									
定期点検時に記録									
(判定区分)		(所見等)							
Ⅰ		舗装にひびわれ、土砂堆積、視線誘導標に欠損が見られるが、道路橋の機能に支障は生じていない状態である。							
全景写真(起点側、終点側を記載すること)									
架設年次		橋長	幅員						
不明		5m	2.75m						
橋梁形式									
RC単純床版橋、不明									
全景				終点側			起点側より		
									

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

別紙2 様式1 様式2
状況写真(損傷状況)
○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。
○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

その他(舗装)【判定区分：Ⅱ】	
写真1	写真2
	
舗装 Pm01 舗装の異常	舗装 Pm01 土砂詰まり
その他(その他)【判定区分：Ⅱ】	【判定区分：Ⅱ】
写真3	
	
その他(視線誘導標) 変形・欠損	

10. 川原井扇淵橋

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	経度	橋梁ID
川原井扇淵橋 (フリガナ)カワハライオウギフチバシ	川原井5号線	袖ヶ浦市川原井1597地先		35° 24′ 52.00″	140° 04′ 05.00″	35.41444,140.06806
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ヶ浦市	2023.1.17	松川	有	一般道		上水道

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)						
定期点検時に記録			定期点検者			

応急措置後に記録						
部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造	Ⅱ	主桁	写真1,2 主桁01			
		横桁				
		床版				
下部構造	Ⅰ					
支承部	Ⅰ					
その他	Ⅱ	舗装の欠損、凹凸	写真3,4 舗装01			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)						
定期点検時に記録						
(判定区分)	(所見等)					

Ⅱ	主桁に鉄筋露出、ひびわれ等が見られる。道路橋の機能に支障は生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態である。					
---	---	--	--	--	--	--

全景写真(起点側、終点側を記載すること)		
架設年次	橋長	幅員
不明	5m	3.23m
橋梁形式		
RC単純床版橋、不明		

全景		正面	
----	--	----	---



※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真(損傷状況)
 ○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。
 ○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

上部構造(主桁)【判定区分：Ⅱ】	
写真1	 主桁 Mg01 ひびわれ その他(舗装)【判定区分：Ⅱ】
写真2	 主桁 Mg01 剥離・鉄筋露出、うき その他(舗装)【判定区分：Ⅱ】
写真3	 舗装 Pm01 その他(舗装の欠損) その他(舗装)【判定区分：Ⅱ】
写真4	 舗装 Pm01 路面の凹凸 その他(舗装)【判定区分：Ⅱ】

11. 台橋

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	35° 22′ 51.00″	橋梁ID	
			経度	140° 02′ 06.00″		35.38083,140.035	
台橋 (フリガナ)ダイバシ	百目木下内橋線	袖ヶ浦市百目木182地先					
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
袖ヶ浦市	2022.1.19	武田川	有	一般道		不明	

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)							
定期点検時に記録				定期点検者			
				開発虎ノ門コンサルタント(株) 漆畑 雄一郎			

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日
上部構造	Ⅰ	主桁				
		横桁				
		床版				
下部構造	Ⅰ					
支承部	Ⅰ					
その他	Ⅱ	脱落、凹凸	写真1 防護柵、写真2 舗装			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)							
定期点検時に記録							
(判定区分)	(所見等)						
Ⅰ	防護柵にナットの脱落、舗装に段差が見られるが、道路橋の機能に支障は生じていない状態である。						

全景写真(起点側、終点側を記載すること)		
架設年次	橋長	幅員
不明	17m	8.00m
橋梁形式		
PC単純プレテン床版橋、不明		

全景	
正面	

全景

起点側

終点側

正面

起点側より

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

その他(防護柵)【判定区分：Ⅱ】		写真1	写真2
【判定区分：Ⅱ】		 防護柵 Gf01 ゆるみ・脱落	 舗装 Pm01 路面の凹凸
【判定区分：Ⅱ】			

12. 百目木芝山橋

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	35° 22' 50.00" 140° 02' 37.00"	橋梁ID
百目木芝山橋 (フリガナ)ドウメキシバヤマバシ	百目木1号線	袖ヶ浦市百目木1168-4地先				35.38056,140.04361
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ヶ浦市	2022.12.14	武田川	有	一般道		無

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)						
定期点検時に記録			定期点検者			
定期点検時に記録			応急措置後に記録			
部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造	Ⅰ	主桁				
		横桁				
		床版				
下部構造	Ⅰ					
支承部	Ⅰ					
その他	Ⅱ	腐食、舗装の異常等	写真1～4 伸縮・舗装・排水装置			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)						
定期点検時に記録						
(判定区分)	(所見等)					
Ⅰ	伸縮装置に欠損、変形、排水管に孔食を伴う腐食が見られるが、道路橋の機能に支障は生じていない状態である。					

全景写真(起点側、終点側を記載すること)		
架設年次	橋長	幅員
不明	10m	6.00m
橋梁形式		
PC単純プレテン床版橋、不明		

全景	
正面	



起点側より

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

その他(伸縮装置)【判定区分：Ⅱ】		その他(舗装)【判定区分：Ⅱ】	
写真1		写真2	
伸縮装置 E:j01 変形・欠損 その他(排水ます)【判定区分：Ⅱ】		舗装 Pm01 舗装の異常 その他(排水管)【判定区分：Ⅱ】	
写真3		写真4	
排水ます Dr:01 土砂詰まり		排水管 Do:02 腐食	

13. 常盤橋

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	35° 22′ 35.00″	橋梁ID
			経度	140° 02′ 14.00″	35.37639,140.03722	
常盤橋 (フリガナ)トキワバシ	百目木下内橋線	袖ヶ浦市百目木630地先				
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ヶ浦市	2022.12.14	常盤川	有	一般道		水道管
部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)						
定期点検時に記録						
部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日
上部構造	Ⅰ	主桁				
		横桁				
		床版				
下部構造	Ⅰ					
支承部	Ⅰ					
その他	Ⅱ	欠損、舗装の異常	写真1 伸縮装置、写真2 舗装			
道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)						
定期点検時に記録						
(判定区分)	(所見等)					
Ⅰ	伸縮装置に欠損、舗装の異常が見られるが、道路橋の機能に支障は生じていない状態である。					
全景写真(起点側、終点側を記載すること)						
架設年次	橋長	幅員				
1972年	6m	5.23m				
橋梁形式						
RC単純床版橋、不明						
全景			起点側		正面	
						
終点側			起点側より			

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真(損傷状況)
○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真に記載のこと。
○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

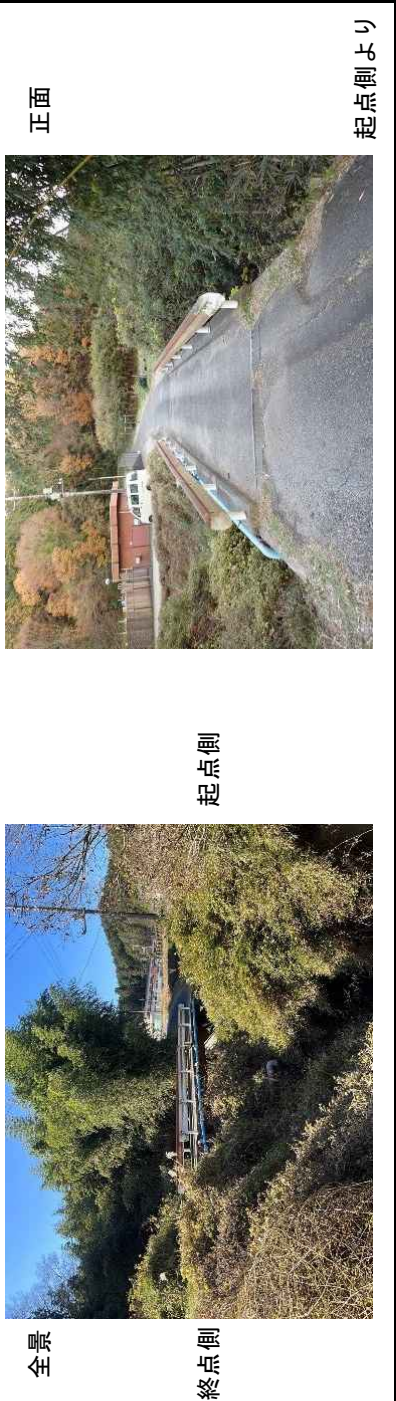
	【判定区分：Ⅱ】	その他(舗装)【判定区分：Ⅱ】
写真1	 伸縮装置 E.j01 変形・欠損	 Pm01 舗装の異常
写真2		

14. 吉野田高田橋

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	35° 21′ 56.00″ 140° 00′ 35.00″	橋梁ID
吉野田高田橋 (フリガナ)ヨシノダタカダバシ	吉野田3号線	袖ヶ浦市吉野田206-5地先				35.36556,140.00972
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ヶ浦市	2022.12.14	檜水川	有	一般道		不明

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)						
定期点検時に記録						
部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造	Ⅱ	腐食	写真1 主桁01			
	Ⅰ					
	Ⅰ					
下部構造	Ⅱ	土砂堆積	写真2 堅壁01			
支承部	Ⅱ	腐食、変形・欠損	写真3 アンカーボルト201			
その他	Ⅱ	脱落、路面の凹凸	写真4～6 防護柵、伸縮、舗装			
道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)						
定期点検時に記録						
(判定区分)	(所見等)					
Ⅱ	桁端部の鋼部材に腐食等が見られる。道路橋の機能に支障は生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態である。					

全景写真(起点側、終点側を記載すること)			
架設年次	橋長	幅員	
不明	10m	2.50m	
橋梁形式			
鋼単純H型鋼桁、不明			



※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真(損傷状況)
 ○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。
 ○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

上部構造(主桁)【判定区分：Ⅱ】		下部構造【判定区分：Ⅱ】	
写真1	 主桁 Mg01 腐食, 防食機能の劣化	写真2	 縦壁 Ac01 その他(土砂堆積) その他(防護柵)【判定区分：Ⅱ】
写真3	 アンカーボルト Ba201 腐食, 変形・欠損	写真4	 防護柵 Gf02 ゆるみ・脱落

その他(伸縮装置)【判定区分：Ⅱ】		その他(舗装)【判定区分：Ⅱ】	
写真5		写真6	
	伸縮装置 Ej02 路面の凹凸		舗装 Pm01 路面の凹凸
【判定区分：Ⅱ】		【判定区分：Ⅱ】	

15. 長作橋

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	35° 21' 45.00" 140° 00' 29.00"	橋梁ID	35.3625,140.00806
長作橋 (フリガナ)ナガサケバシ	上宮田1号線	袖ヶ浦市吉野田123地先					
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
袖ヶ浦市	2022.12.15	檜水川	有	一般道		不明	

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)							定期点検者	開発虎ノ門コンサルタント(株) 漆畑 雄一郎
定期点検時に記録							応急措置後に記録	
部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日		
上部構造	Ⅲ	主桁	写真1 主桁03					
		横桁	写真2 横桁01					
		床版	写真3 床版01					
下部構造	Ⅱ	土砂堆積	写真7 堅壁01					
支承部	Ⅲ	腐食	写真4 アンカーボルト102					
その他	Ⅲ	凹凸、脱落、漏水	写真5,6 伸縮装置02					

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)	
定期点検時に記録	
(判定区分)	(所見等)
Ⅲ	鋼部材に板厚減少を伴う腐食が見られる。橋梁構造の安全性の観点から早期に措置を講ずべき状態である。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)			
架設年次	橋長	幅員	
不明	5m	4.00m	
橋梁形式			
鋼床版単純H桁橋、不明			



※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真(損傷状況)
 ○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。
 ○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

上部構造(主桁)【判定区分：Ⅲ】		上部構造(横桁)【判定区分：Ⅲ】	
写真1	 主桁 Mg03 腐食	写真2	 横桁 Cr01 腐食
上部構造(床版)【判定区分：Ⅲ】		支承部【判定区分：Ⅱ】	
写真3	 床版 Ds02 腐食、欠損	写真4	 アンカーボルト Ba102 腐食

別紙2 様式1 様式2
 状況写真(損傷状況)
 ○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。
 ○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

【判定区分：Ⅲ】		【判定区分：Ⅲ】	
写真5		伸縮装置 EJ02 その他(エラストイトの脱落)、漏水・滞水 下部構造【判定区分：Ⅲ】	伸縮装置 EJ02 路面の凹凸 【判定区分：Ⅲ】
写真3		縦壁 Ac01 その他(土砂堆積)	写真6 

16. 宮田橋

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	35° 21' 24.00"	橋梁ID
宮田橋 (フリガナ)ミヤタバシ	下宮田上宮田線	袖ヶ浦市下宮田87-3地先		経度	140° 00' 44.00"	35.35667,140.01222
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ヶ浦市	2023.1.13	檜水川	有	一般道		水道管

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)						
定期点検時に記録						
部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造	Ⅰ	主桁				
		横桁				
		床版				
下部構造	Ⅰ					
支承部	Ⅰ					
その他	Ⅱ	路面の凹凸	写真1 舗装01			
道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)						
定期点検時に記録						
(判定区分) (所見等)						
Ⅰ	舗装に段差が見られるが、道路橋の機能に支障は生じていない状態である。					

全景写真(起点側、終点側を記載すること)			
架設年次	橋長	幅員	
1996年	19m	5.00m	
橋梁形式			
PC単純プレテンT桁橋、逆T式橋台2基			

全景

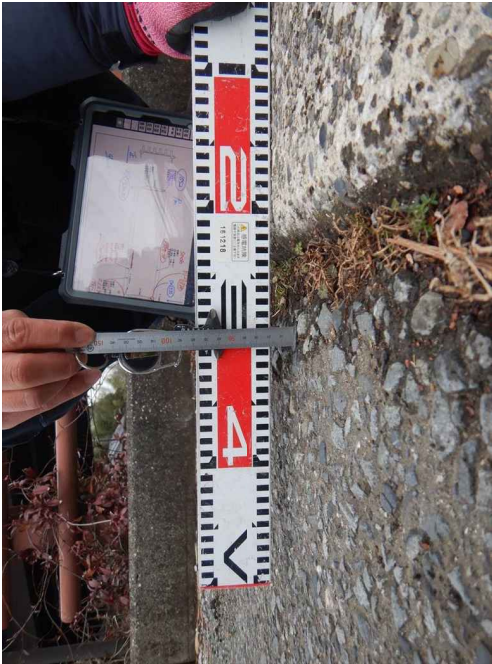
終点側

起点側

正面

起点側より

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

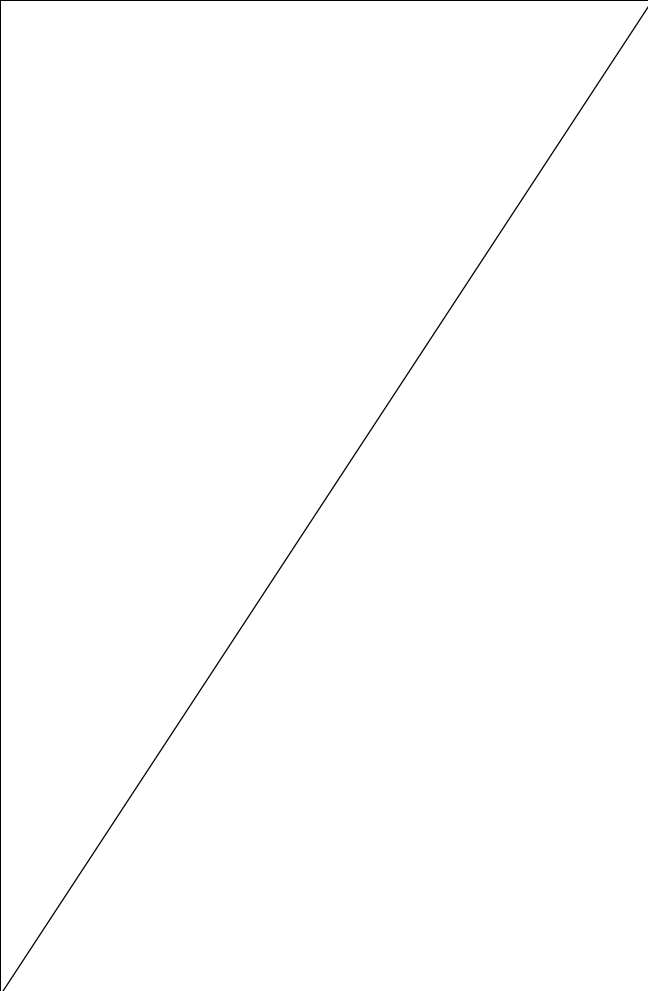
写真1		【判定区分：Ⅱ】
	舗装 Pm01 路面の凹凸	【判定区分：Ⅱ】

17. 扇洩橋

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	35° 24′ 53.00″	橋梁ID
				経度	140° 03′ 58.00″	35.41472,140.06611
扇淵橋 (フリガナ)オオギブチバシ						
管理者名	川原井金堀台線	袖ヶ浦市川原井56-1地先				
袖ヶ浦市	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
	2022.12.14	松川	有	一般道		用水管、電力管
部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)						
定期点検時に記録						
部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日
上部構造	主桁					
	横桁					
	床版					
下部構造	Ⅱ	土砂堆積	写真1 堅壁01			
支承部	Ⅱ	土砂詰まり	写真1 支承本体101			
その他	Ⅱ	土砂詰まり	写真2 舗装、写真3 排水ます			
道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)						
定期点検時に記録						
(判定区分)	(所見等)					
Ⅱ	橋台、支承本体に土砂詰まりが見られる。道路橋の機能に支障は生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態である。					
全景写真(起点側、終点側を記載すること)						
架設年次	橋長	幅員				
1991年	14m	10.10m				
橋梁形式						
PC単純I桁橋、不明						
全景			終点側		起点側より	
						

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真(損傷状況)
 ○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。
 ○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

支 承 部【判定区分：Ⅱ】		そ の 他 (舗 装)【判定区分：Ⅱ】	
写真1		写真2	
支 承 本 体 Bh101 土砂詰まり、縦壁 Ac01 そ の 他 (土砂堆積)		舗 装 Pm01 土砂詰まり	
そ の 他 (排水ます)【判定区分：Ⅱ】		【判定区分：Ⅱ】	
写真3			
排水ます Dr01 土砂詰まり			

18. 上泉跨道橋

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	経度	橋梁ID
上京跨道橋 (フリガナ)カミイズミコドウキョウ	飯富上京線	袖ヶ浦市上京1764-120地先		35° 25′ 26.00″	140° 02′ 41.00″	35.42389,140.04472
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ヶ浦市	2023.1.16	主要地方道 千葉鴨川線	有	一般道		不明

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検時に記録						
定期点検時に記録				応急措置後に記録		
部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日
上部構造	Ⅰ	主桁				
		横桁				
		床版				
下部構造	Ⅰ					
支承部	Ⅰ					
その他	Ⅱ	土砂詰まり	写真1～3 舗装、排水装置			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録	
(判定区分)	(所見等)
Ⅰ	排水管全体に土砂詰まり(点検時に打音で確認)、舗装に土砂詰まりが見られるが、道路橋の機能に支障は生じていない状態である。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
2001年	40m	9.00m
橋梁形式		
PC単純ボステンT桁橋、逆T式橋台2基		

全景

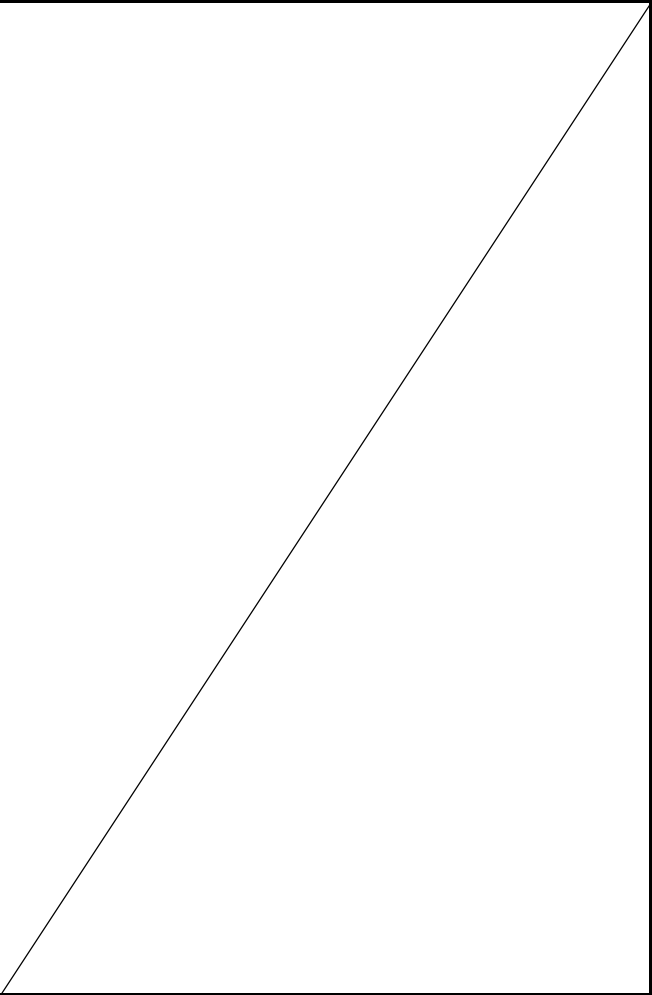
起点側

終点側

正面

起点側より

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

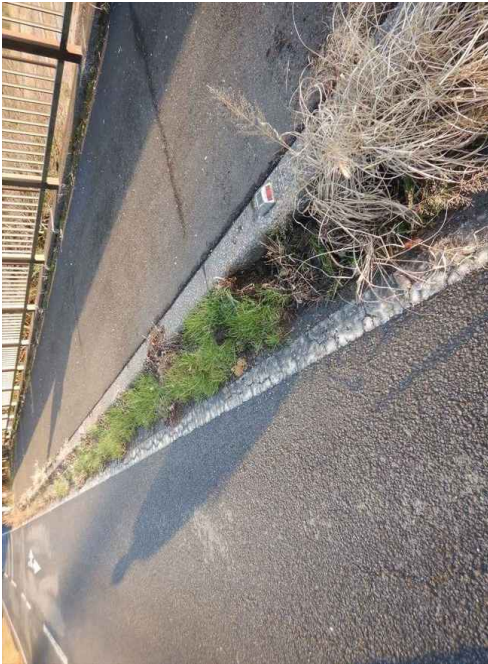
その他(舗装)【判定区分：Ⅱ】		その他(排水ます)【判定区分：Ⅱ】	
写真1	 舗装 Pm01 土砂詰まり	写真2	 排水ます Dr01 土砂詰まり
写真3	 排水管 Dp02 土砂詰まり	 その他(排水管)【判定区分：Ⅱ】	

19. 宮田大橋

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	35° 21' 41.00"	橋梁ID
			経度	140° 00' 36.00"	35.36139,140.01	
宮田大橋 (フリガナ)ミヤタオオハシ	吉野田上宮田線	袖ヶ浦市下宮田30-2地先				
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ヶ浦市	2023.1.13	檜水川	有	一般道		電力管
部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)						
定期点検時に記録						
部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日
上部構造	I	主桁				
	I	横桁				
	I	床版				
下部構造	I					
支承部	I					
その他	Ⅱ	漏水、欠損、土砂	写真1～4 伸縮・舗装・排水管			
道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)						
定期点検時に記録						
(判定区分)	(所見等)					
I	伸縮装置に欠損、漏水、排水管のジョイント部に欠損が見られるが、道路橋の機能に支障は生じていない状態である。					
全景写真(起点側、終点側を記載すること)						
架設年次	橋長	幅員				
1998年	119m	10.00m				
橋梁形式						
鋼2径間連続鈑桁橋・鋼3径間連続鈑桁橋、逆T式橋台2基、張出式橋脚5基						
全景			終点側		起点側より	
						

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真(損傷状況)
 ○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。
 ○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

その他(伸縮装置)【判定区分：Ⅱ】		その他(伸縮装置)【判定区分：Ⅱ】	
写真1		写真2	
伸縮装置 Ej02 漏水・滞水		伸縮装置 Ej02 変形・欠損	
その他(舗装)【判定区分：Ⅱ】		その他(排水管)【判定区分：Ⅱ】	
写真3		写真4	
舗装 Pm02 土砂詰まり		排水管 Do01 変形・欠損	

20. 高須臨海橋

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	経度	橋梁ID
高須臨海橋 (フリガナ)タカスリンカイバシ	高須南袖自転車道線	袖ヶ浦市奈良輪2457-2地先		35° 26′ 28.00″	139° 57′ 27.00″	35.44111,139.9575
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ヶ浦市	2023.1.23	東京湾	有	一般道		水道管

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)						
定期点検時に記録			定期点検者			
変状の種類			緊急措置後に記録			

部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	緊急措置後の 判定区分	緊急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造	Ⅰ	主桁				
		横桁				
		床版				
下部構造	Ⅰ					
支承部	Ⅰ					
その他	Ⅱ	変形、舗装の異常等	写真1～6 伸縮装置,舗装			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)						
定期点検時に記録						
(判定区分)	(所見等)					

Ⅰ	伸縮装置から桁下への漏水、ゴム材の欠損、舗装にひびわれ、欠損が見られるが、道路橋の機能に支障は生じていない状態である。					
---	---	--	--	--	--	--

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
2001年	37m	3.00m
橋梁形式		
鋼床版飯桁橋(下路式)、逆T式橋台2基		



※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真(損傷状況)
 ○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。
 ○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

その他(伸縮装置)【判定区分：Ⅱ】		その他(伸縮装置)【判定区分：Ⅱ】	
写真1		写真2	
伸縮装置 EJ01 変形・欠損 漏水・滞水		伸縮装置 EJ01 漏水・滞水	
その他(伸縮装置)【判定区分：Ⅱ】		その他(舗装)【判定区分：Ⅱ】	
写真3		写真4	
伸縮装置 EJ01 変形・欠損		舗装 Pm01 舗装の異常(欠損)	

状況写真(損傷状況)
 ○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。
 ○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

その他(舗装)【判定区分：Ⅱ】	
写真5	写真6
舗装 Pm01 舗装の異常(ひびわれ) 【判定区分：Ⅱ】	舗装 Pm01 その他(植生) 【判定区分：Ⅱ】

21. 三侯橋

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	35° 25′ 07.00″	橋梁ID
				経度	139° 57′ 21.00″	35.41861,139.95583
三俣橋 (フリガナ)ミツマタバシ	神納7号線	袖ヶ浦市神納1284-1地先				
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ヶ浦市	2023.1.12	浮戸川	有	一般道		不明
部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)						
定期点検時に記録						
部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造	Ⅰ	主桁				
		横桁				
		床版				
下部構造	Ⅰ					
支承部	Ⅰ					
その他	Ⅰ					
道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)						
定期点検時に記録						
(判定区分)	(所見等)					
Ⅰ	道路橋の機能に支障は生じていない状態である。					
全景写真(起点側、終点側を記載すること)						
架設年次	橋長	幅員				
1998年	36m	6.00m				
橋梁形式						
PC単純ボステン中空床版橋、逆T式橋台2基						
全景			終点側		正面	
						
起点側			終点側		起点側より	

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

別紙2 様式1 様式2
状況写真(損傷状況)
○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。
○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

【判定区分：】	【判定区分：】
【判定区分：】	【判定区分：】

22. 神納一号跨道橋

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度 経度	35° 25′ 34.00″ 139° 58′ 35.00″	橋梁ID
神納一号跨道橋 (フリガナ)カシノウイチゴウゴドウキョウ	神納19号線	袖ヶ浦市神納2879地先				35.42611,139.97639
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ヶ浦市	2023.1.11	代宿神納線	有	一般道		不明

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検時に記録						
変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)				応急措置後に記録		
部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	判定区分	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造	Ⅱ	主桁	剥離・鉄筋露出、うき 写真1、2 主桁01			
		横桁				
		床版				
下部構造	Ⅰ					
支承部	Ⅰ					
その他	Ⅱ		脱落、路面の凹凸 写真3 防護柵、写真4 舗装			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録	
(判定区分)	(所見等)
Ⅱ	主桁にうき、鉄筋露出が見られる。道路橋の機能に支障は生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態である。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1995年	47m	4.00m
橋梁形式		
PC斜材付変形π型ラーメン橋、小橋台2基、壁式橋脚2基		

全景

終点側

起点側

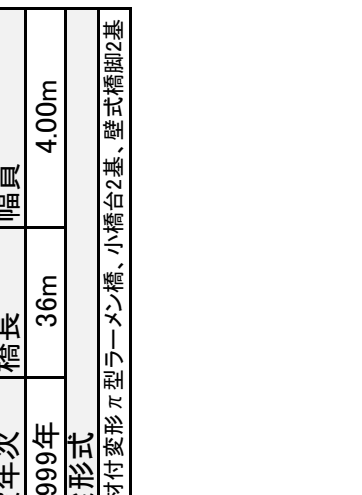
正面

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真(損傷状況)
 ○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。
 ○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

上部構造(主桁)【判定区分：Ⅱ】	
写真1	 主桁 Mg01 剥離・鉄筋露出、うき ※うきは、たたき落としを実施したが落ちなかった。 その他(防護柵)【判定区分：Ⅱ】
写真2	 主桁 Mg01 剥離・鉄筋露出、うき ※うきは、たたき落としを実施したが落ちなかった。 その他(舗装)【判定区分：Ⅱ】
写真3	 防護柵 Gf02 ゆるみ・脱落
	 舗装 Pm01 路面の凹凸

23. 神納二号跨道橋

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	35° 25′ 35.00″	橋梁ID
			経度	139° 58′ 31.00″	35.42639,139.97528	
神納二号跨道橋 (フリガナ)カシノウニゴウコドウキョウ	神納19号線	袖ヶ浦市神納2957-9地先				
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ヶ浦市	2023.1.11	南袖大野台線	有	一般道		不明
部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)						
定期点検時に記録						
部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造	主桁					
	横桁					
	床版					
下部構造	Ⅰ					
支承部	Ⅰ					
その他	Ⅱ	欠損、土砂詰まり	写真1 伸縮装置、写真2 舗装			
道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)						
定期点検時に記録						
(判定区分)	(所見等)					
Ⅰ	舗装に土砂詰まり、伸縮装置のシール材に欠損が見られるが、道路橋の機能に支障は生じていない状態である。					
全景写真(起点側、終点側を記載すること)						
架設年次	橋長	幅員				
1999年	36m	4.00m				
橋梁形式						
PC斜材付変形π型ラーメン橋、小橋台2基、壁式橋脚2基						
全景			終点側		起点側より	
						

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

【判定区分：Ⅱ】		【判定区分：Ⅱ】	
写真1		伸縮装置 Ej01 変形・欠損	舗装 Pm01 土砂詰まり
写真2		その他(舗装)	【判定区分：Ⅱ】

24. 新富橋

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	35° 24′ 41.00″	橋梁ID
				経度	139° 59′ 25.00″	35.41139,139.99028
新富橋 (フリガナ)シントミバシ	飯富30号線	袖ヶ浦市飯富1635-1地先				
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ヶ浦市	2023.1.12	浮戸川	有	一般道		不明
部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)						
定期点検時に記録						
部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日
上部構造	主桁					
	横桁					
	床版					
下部構造	Ⅰ					
支承部	Ⅰ					
その他	Ⅰ					
道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)						
定期点検時に記録						
(判定区分)	(所見等)					
Ⅰ	道路橋の機能に支障は生じていない状態である。					
全景写真(起点側、終点側を記載すること)						
架設年次	橋長	幅員				
2001年	18m	6.50m				
橋梁形式						
PC単純プレテン中空床版橋、不明						
全景			終点側		起点側より	
						

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

【判定区分：】	
【判定区分：】	

25. ボックスカルバート⑥

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	35° 24′ 37.00″	橋梁ID	
				経度	140° 00′ 33.00″		35.41028,140.00917
ボックスカルバート⑥ (フリガナ)ボックスカルバートロク							
管理者名	飯富22号線	袖ヶ浦市大曽根391地先					
袖ヶ浦市	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
	2022.12.1	水路	有	一般道		無	
部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)							
定期点検時に記録							
部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日	
上部構造	Ⅰ	主桁					
		横桁					
		床版					
下部構造	Ⅰ						
支承部	Ⅰ						
その他	Ⅰ						
道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)							
定期点検時に記録							
(判定区分)	(所見等)						
Ⅰ	道路橋の機能に支障は生じていない状態である。						
全景写真(起点側、終点側を記載すること)							
架設年次	橋長	幅員					
不明	4m	7.20m					
橋梁形式							
RC単純床版橋、不明							
全景			終点側			起点側より	
							

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

別紙2 様式1 様式2
状況写真(損傷状況)
○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。
○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

【判定区分：】	
【判定区分：】	

26. ボックスカルバート⑤

橋梁名		路線名		所在地		起点側	緯度	35° 24′ 59.00″	橋梁ID
						経度	経度	139° 59′ 32.00″	35.41639,139.99222
ボックスカルバート⑤ (フリガナ)ボックスカルバートゴ		飯富29号線		袖ヶ浦市飯富1635-1地先					
管理者名		定期点検実施年月日		路下条件		代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ヶ浦市		2022.12.1		水路		有	一般道		無
部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)									
定期点検時に記録									
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)		応急措置後の判定区分	応急措置内容		応急措置及び判定実施年月日
溝橋(ボックスカルバート)本体	頂版	Ⅰ							
	側壁	Ⅰ							
	底板	Ⅰ							
翼壁									
継手		Ⅰ							
その他		Ⅱ	舗装の異常	写真1 舗装01					
道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)									
定期点検時に記録									
(判定区分)		(所見等)							
Ⅰ		舗装にひびわれが見られるが、道路橋の機能に支障は生じていない状態である。							
全景写真(起点側、終点側を記載すること)									
架設年次	不明	橋長	4m	幅員	6.00m	正面			
橋梁形式	PCaボックスカルバート					終点側			
					起点側より				

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

別紙2 様式1様式2

狀況写真(損傷状況)

○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

【判定区分：Ⅱ】
その他(舗装)

【分區】

写真



常
鋪装の異
Pm01
鋪装

【判定区分】

【判定区分】

27. ボックスカルバート①

橋梁名		路線名		所在地		起点側	緯度	35° 26′ 21.00″	橋梁ID
						経度	経度	139° 57′ 40.00″	35.43917,139.96111
ボックスカルバート① (フリガナ)ボックスカルバートイチ		奈良輪22号線		袖ヶ浦市奈良輪2520地先					
管理者名		定期点検実施年月日		路下条件		代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ヶ浦市		2022.12.15		奈良輪第一雨水幹線		有	一般道		上水道
部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)									
定期点検時に記録									
部材名		判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)		応急措置後の判定区分	応急措置内容		応急措置及び判定実施年月日
溝橋(ボックスカルバート)本体	頂版	Ⅰ							
	側壁	Ⅰ							
	底板	Ⅰ							
翼壁									
継手									
その他		Ⅰ							
道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)									
定期点検時に記録									
(判定区分)		(所見等)							
Ⅰ		道路橋の機能に支障は生じていない状態である。							
全景写真(起点側、終点側を記載すること)									
架設年次		橋長	幅員						
不明		3m	7.85m						
橋梁形式									
現場打ちボックスカルバート									
全景				終点側				起点側より	
									

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

別紙2 様式1 様式2
状況写真(損傷状況)
○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。
○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

【判定区分：】	
【判定区分：】	
【判定区分：】	
【判定区分：】	

28. ボックスカルバート②

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	35° 26′ 20.00″	橋梁ID	
			経度	139° 57′ 43.00″		35.43889,139.96194	
ボックスカルバート②							
(フリガナ)ボックスカルバートニ							
管理者名	奈良輪22号線	袖ヶ浦市奈良輪2523-6地先					
袖ヶ浦市	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
	2022.12.15	奈良輪第一雨水幹線	有	一般道		上水道、ガス	
部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)							
定期点検時に記録							
部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日	
溝橋(ボックスカルバート)本体	Ⅰ	頂版					
	Ⅰ	側壁					
	Ⅰ	底板					
翼壁							
継手							
その他	Ⅰ						
道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)							
定期点検時に記録							
(判定区分)	(所見等)						
Ⅰ	道路橋の機能に支障は生じていない状態である。						
全景写真(起点側、終点側を記載すること)							
架設年次	橋長	幅員					
不明	6m	13.40m					
橋梁形式							
現場打ちボックスカルバート							
全景			終点側			起点側より	
							

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

【判定区分：】	
【判定区分：】	

29. (仮称) 袖海 1 号線

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	経度	橋梁ID
(仮称)袖海1号線 (フリガナ)(カショウ)ソデウミイチゴウセン	袖ヶ浦駅北口線	袖ヶ浦市奈良輪1610地先		35° 26′ 08.00″	139° 57′ 23.00″	35.43556,139.95639
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ヶ浦市	2022.12.5	奈良輪第一雨水幹線	有	一般道		污水管、ガス管、水道管
部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)						
定期点検時に記録						
部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日
上部構造	主桁					
	横桁					
	床版					
下部構造	Ⅰ					
支承部	Ⅰ					
その他	Ⅰ					
道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)						
定期点検時に記録						
(判定区分)	(所見等)					
Ⅰ	道路橋の機能に支障は生じていない状態である。					
全景写真(起点側、終点側を記載すること)						
架設年次	橋長	幅員				
2013年	11m	22.00m				
橋梁形式						
複合門型ラーメン橋、RC壁式橋台2基						
全景			終点側		正面	
起点側					起点側より	

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

【判定区分：】	
【判定区分：】	

30. (仮称) 袖海 2 号線

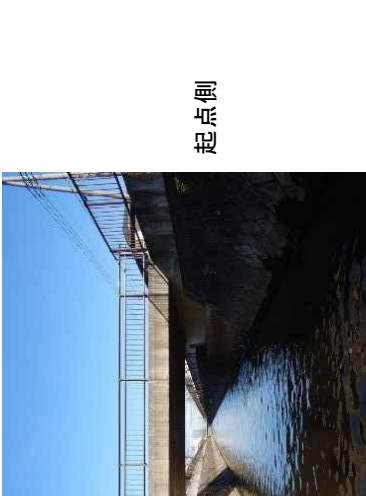
橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	経度	橋梁ID
(仮称)袖海2号線 (フリガナ)(カショウ)ソデウミニゴウセン	南袖神納線	袖ヶ浦市奈良輪1701地先		35° 26′ 04.00″	139° 57′ 11.00″	35.43444,139.95306
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ヶ浦市	2022.12.12	奈良輪第一雨水幹線	有	一般道		水道管
部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)						
定期点検時に記録						
部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日
上部構造	主桁					
	横桁					
	床版					
下部構造	Ⅰ					
支承部	Ⅰ					
その他	Ⅰ					
道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)						
定期点検時に記録						
(判定区分)	(所見等)					
Ⅰ	道路橋の機能に支障は生じていない状態である。					
全景写真(起点側、終点側を記載すること)						
架設年次	橋長	幅員				
2013年	11m	20.00m				
橋梁形式						
複合門型ラーメン橋、RC壁式橋台2基						
全景			終点側		正面	
						
起点側					起点側より	

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

別紙2 様式1 様式2
状況写真(損傷状況)
○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。
○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

【判定区分：】	【判定区分：】
【判定区分：】	【判定区分：】

31. (仮称) 袖海 3 号線

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	35° 26′ 06.00″	橋梁ID
				経度	139° 57′ 17.00″	35.435,139.95472
(仮称)袖海3号線 (フリガナ)(カショウ)ソデウミサンゴウセン						
管理者名	袖ヶ浦駅海側114号線	袖ヶ浦市奈良輪1687地先				
袖ヶ浦市	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
	2022.12.12	奈良輪第一雨水幹線	有	一般道		無
部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)						
定期点検時に記録						
部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日
上部構造	主桁					
	横桁					
	床版					
下部構造	Ⅰ					
支承部	Ⅰ					
その他	Ⅱ	路面の凹凸	写真1 舗装01			
道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)						
定期点検時に記録						
(判定区分)	(所見等)					
Ⅰ	舗装に段差が見られるが、道路橋の機能に支障は生じていない状態である。					
全景写真(起点側、終点側を記載すること)						
架設年次	橋長	幅員				
2013年	11m	6.00m				
橋梁形式						
H鋼桁埋込RC複合門形ラーメン橋、単列杭基礎形式橋台2基						
全景			起点側			
						
終点側			起点側より			
						

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

写真1	 舗装 Pm01 路面の凹凸	【判定区分：Ⅱ】
		【判定区分：Ⅱ】

32. (仮称) 袖海 4 号線

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	経度	橋梁ID
(仮称)袖海4号線 (フリガナ)(カショウ)ソデウミンゴウゼン	袖ヶ浦駅海側124号線	袖ヶ浦市奈良輪1701地先		35° 26′ 02.00″	139° 57′ 06.00″	35.43389,139.95167
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ヶ浦市	2022.12.12	奈良輪第一雨水幹線	有	一般道		無

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)						
定期点検時に記録			定期点検者			

応急措置後に記録						
部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置内容	応急措置及び 判定実施年月日
溝橋(ボックスカルバート)本体	Ⅰ	頂版				
	Ⅰ	側壁				
	Ⅰ	底板				
翼壁						
継手	Ⅰ					
その他	Ⅰ					

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)						
定期点検時に記録						
(判定区分)	(所見等)					
Ⅰ	道路橋の機能に支障は生じていない状態である。					

全景写真(起点側、終点側を記載すること)		
架設年次	橋長	幅員
2015年	9m	4.00m
橋梁形式		
門型カルバート(二次製品)		

全景



正面



全景



終点側

正面



起点側より

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

別紙2 様式1 様式2
状況写真(損傷状況)
○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。
○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

【判定区分：】	
【判定区分：】	

33. 林熊野橋

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	35° 24′ 03.00″	橋梁ID	35.40083,140.075
林熊野橋 (フリガナ)ハヤシクマノハシ	林2号線	袖ヶ浦市林670地先		経度	140° 04′ 30.00″		
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
袖ヶ浦市	2022.12.14	松川	有	一般道		ポリエチレン管	
部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)							
定期点検時に記録							
部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日	
上部構造	Ⅰ						
主桁							
横桁							
床版	Ⅰ						
下部構造	Ⅰ						
支承部	Ⅰ						
その他	Ⅰ						
道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)							
定期点検時に記録							
(判定区分)	(所見等)						
Ⅰ	道路橋の機能に支障は生じていない状態である。						
全景写真(起点側、終点側を記載すること)							
架設年次	橋長	幅員					
2016年	11m	6.00m					
橋梁形式							
PC単純床版橋、逆T式橋台2基							
全景			起点側			正面	
							
終点側			起点側より				

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

【判定区分：】	
【判定区分：】	

34. 向岱跨道橋

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	35° 24′ 28.00″	橋梁ID	
				経度	140° 02′ 31.00″		35.40778,140.04194
向岱跨道橋 (フリガナ)ムコウダイコドウキョウ	市道上泉24号線	袖ヶ浦市上泉731地先					
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
袖ヶ浦市	2023.1.16	主要地方道千葉鴨川線	有	一般道		無	
部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)							
定期点検時に記録							
部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日	
上部構造	主桁						
	横桁						
	床版						
下部構造	Ⅰ						
支承部							
その他	Ⅰ						
道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)							
定期点検時に記録							
(判定区分)	(所見等)						
Ⅰ	道路橋の機能に支障は生じていない状態である。						
全景写真(起点側、終点側を記載すること)							
架設年次	橋長	幅員					
2015年	30m	2.00m					
橋梁形式							
PC単純ポータルラーメン橋、逆T式橋台2基							
全景			終点側			正面	
							
起点側			終点側			起点側より	

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

別紙2 様式1 様式2
状況写真(損傷状況)
○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。
○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

【判定区分：】	
【判定区分：】	

35. 槍水橋側道橋

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	35° 22′ 33.85″	橋梁ID
榑水橋側道橋 (フリガナ)ヤリミズバシソクドウキョウ	吉野田4号線	袖ヶ浦市吉野田588-2地先	経度	140° 00′ 55.29″	35.37606,140.01533	
管理者名	定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
袖ヶ浦市	2023.1.16	榑水川	有	一般道		無

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)

定期点検時に記録						
変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)				応急措置後に記録		
部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	判定区分	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	応急措置後の判定区分	応急措置内容	応急措置及び判定実施年月日
上部構造	主桁	Ⅲ	写真1 主桁01 写真2 主桁02			
	横桁	Ⅰ				
	床版	Ⅲ	写真3 床版01			
下部構造		Ⅱ	写真6 堅壁02			
		Ⅲ	写真4 支承本体101			
その他		Ⅲ	写真7～10 排水管、護岸 等			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録	
(判定区分)	(所見等)
Ⅲ	主桁にひびわれ、鉄筋露出、うき、支承部に著しい腐食が見られる。橋梁構造の安全性の観点から早期に措置を講ずることが望ましい状態である。

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員
1960年	13m	3.50m
橋梁形式		
RCT桁橋、逆T式橋台2基(想定)		

全景



終点側



起点側より

正面

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。
○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

写真1  上部構造(主桁)【判定区分：Ⅲ】	写真2  上部構造(主桁)【判定区分：Ⅲ】
写真3  床版 Ds01 剥離・鉄筋露出、漏水・帯水	写真4  支承部【判定区分：Ⅲ】 主桁 Mg01 ひびわれ 支承本体 Bh101 腐食

○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。
○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

写真5 地覆 Fg02 剥離・鉄筋露出 【判定区分：Ⅲ】 下部構造 【判定区分：Ⅱ】 写真6 胸壁 Ap02 剥離・鉄筋露出	写真7 排水管 Dp02 腐食 【判定区分：Ⅱ】 その他(排水管) 【判定区分：Ⅱ】 写真8 袖擁壁 Ww02 変形・欠損、その他(土砂流入箇所)
--	---

【判定区分：Ⅲ】		【判定区分：Ⅱ】	
写真9		写真10	
【判定区分：Ⅲ】		【判定区分：Ⅱ】	
護岸 (A2側) 変形・欠損		護岸 (A2側) 変形・欠損	
【判定区分：Ⅲ】		【判定区分：Ⅱ】	